



# おじさんズ通信

2023年2月号 (No.27)

発行元：登別市新生町4丁目緑風舎

発行所：おじさんズ3号

Web

<http://www.ne.jp/asahi/takanet/mori/>

## Playback 青春の1

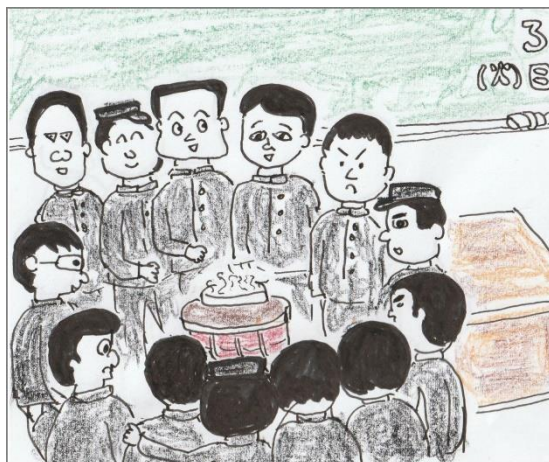
### 思い出のダークダックス

ダークダックスといっても、あの男性コーラスグループそのもの話ではありません。関係はありますが。

厳冬期に思い出す、高校時代の教室風景です。赤々と燃える石油ストーブを囲み、最初は堂々と体の正面をあぶりながら授業前の雑談に興じていると、「お〜い、入れてくれ」と一人、また一人加わり、限られた空間で押し合い状態に。

そこで誰かが声を上げます。「ダークダックス!」。すると、みんな体の向きを斜めにして、「わわわわ〜」のコーラス態勢に移るのです。そして、半身がほどほどに熱くなると、「はい、反対」の号令がかかり、斜の構えを一齐に逆向きに切り替えます。

なぜ合図の掛け声が「ボニージャックス」や「デューク・エイセス」ではなかったのか、今も謎ですが、言い出しっぺの早いもの勝ちで、いつの間にか定着したのかも。あの頃、ストーブは赤い炎をあげていただけで、ぐり居並んだどのツラも青かったな〜。(イラスト：3号)



## Playback 青春の2

### わたしの役は何だったけ?



確かあの時の写真があったはず、と探してみたら出てきました。若いころの、役者のわたくしが。

昭和47年秋、室蘭の市民会館で2日間にわたり上演された「日本の公害1970」(ふじた あさや作)。水俣病を最初に発見したチッソ水俣工場付属病院長の細川一氏が主人公の芝居で、室蘭工大の学生を中心に結成された演劇集団「民衆」の助っ人として参加しました。若干23歳のブー太郎、もしくは

地球整備士がなりわいだったような気がします。

裏方を手伝うつもりが、人手不足からか、キャストの一員に引きずり込まれました。出演時に撮られた写真を見ると、もう何年も袖を通していなかった背広に、首からスルメをぶら下げて何かしゃべっています。青春Photoのその一枚を見ているうちに、疑問がわいてきました。

いったい、わたくしが演じた役、劇中の誰だったのか?

実は創作活動の参考に一と、ネットを通じて脚本が載っている総合演劇雑誌「テアトロ」(1971年5月号)を取り寄せていました。おぼろげな記憶の中に、自分の役は確か水俣保健所長だった気がする、登場シーンの最後に放った笑い声が、あまりにウソ臭かったから、逆に観客に笑われたニガ〜イ思い出が、今も小さなトゲになって心に刺さったままです。

ところが、シナリオと写真を突き合わせ、多分このシーンだろうと照合してみると、舞台上の人物が一人多くて、わたしの役柄は別の人だったのかな? と自信をなくしました。

ともあれ、資料調べをしているうちに、ちょうど公演が行われたこの年、ときの革新系市長が大気汚染に苦しむ室蘭住民の声を背景に「公害企業は出ていけ」発言をして、マチを揺るがす大騒動に発展したとの記事も見つけました。

あれから半世紀。先日、劇を企画した当時の工大生、Sさんと2年ぶりに会い、「私がやった役は、誰だっけ」と聞いてみましたが、「さあ〜、すっかり忘れてしまって」と、ご同様に記憶の片々は失われていました。残された格言「歳月は、おのれの足跡をも消し去る」というところでしょう。



## よろしければ、動画などを

木曜会メンバーのSさんより、昨年登別から道都に移転した札幌映像機材博物館が、YouTubeで紹介されているとの連絡あり。高校時代の友、BIN 山本が鹿爪顔で展示品などを紹介しています。最近では、全国に記事を配信している共同通信の取材を受け、沖縄の新聞にも掲載されたというから、これまでの奮闘努力が報われて、この私設ミュージアムもいよいよ全国区の仲間入りかな。



カメラマン必見 貴重機材のぞく 札幌映像機材博物館

その証拠でしょうか、昨年暮れに三つ折りパンフレットのデザインを依頼され、素人仕事ながら、何とか仕上げました。まあ、余白計算が甘かったせいか出来は90点。友達のよしみで勘弁してくれ〜と低頭しました。

紹介動画 URL の QR コードを掲載しました。よろしければ、ご覧いただき、ご家族、お友達にも PR をよろしく。



No War No War No War No War No War No War No War No War No War No War

## マッチのラベル2題

### その1) 嫁ぎ先を探せ

シートブックに整理して、もう数年眠ったままの1950年から70年にかけて客に提供されたマッチのラベルを、活用してくれそうな若い人にバトンタッチしたいと、最近、動き始めました。

その第1弾です。室蘭の喫茶店や飲食店のラベル約60枚を、古い建物の保存運動などに取り組んでいる青年に先日、もらっていただきました。

元々の収集家は函館で長年働いた人だけに、かつては北海道の玄関口だったこのマチで集めたマッチ箱は数千個に達しました。

3冊のシートブックに収めたその函館マッチ、嫁ぎ先をあれこれ考えていたら、先日「私、函館出身です」というご婦人に出会い、打診したところ、早速、協力していただくことになりました。

とにかかくにも、市塵に埋もれさせるな一の精神が大事です。継承できそうな方、お譲りします。

### その2) 図書館でもアピール

以前の号でも触れましたが、登別のホテル・旅館マッチや、市内の喫茶店・飲食店のラベルを市立図書館の「ちょこっとギャラリー」で紹介しました。その第3弾として今月下旬に飾るのは、文字情報中心のマッ

チです。収めた12枚をちょこっとご案内すると、「あなたもリンゴの木の持ち主に 壮警町 坂爪果樹園」「安くてすみません!! 薄野霊園」「ひじかた小路の由来 SNACK キングオブヒルトン(函館)」「長相思 白楽天 coffee&Neptune 杉の子」などなど。

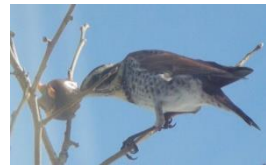


ジャンル別に探してみると、ジャズ喫茶・音楽喫茶・民謡酒場ものや、アート・マッチなどにくることができます。中には、「小畑実(ピクチャー) ベテランの味を心ゆくまでお楽しみ下さい はこだて未完成」というキャバレーのマッチも出てきました。50年後の持ち主よ、高値がつくこと、請け合いです。

\*\*\*\*\*

## やっと来訪、ひと安心

年を越してもヒヨドリが姿を見せず、やはり今冬は異常なのかとあきらめていたら1月の末、やって来ました。2羽だから、ツガイなのでしょう。大きくならないのでここ数年、鳥たちの餌に一と放っておいた焦げ茶色の柿の実



を盛んにつつつく姿に、(これこれ、冬の庭には、この光景がなくちゃ)とカメラを向けてパチリ。



厳冬期に欠かせないもう一景は、家の軒先からせり出す氷柱群です。層雲峡や支笏湖の氷濤まつりに行かずとも、これを眺めるだけで十分じゃないですか。あと数十センチで下の雪面にたどり着くと待ち焦がれていたなら気温が上がり、あえなくポキリ、またポキリ。アダモの名曲「インシャラー」を口ずさんでいました。

## 薫風 烈風

▶ウクライナのタラス・シェフチェンコが書き残した「画学生 一残されたマドンナー」を探していると先月号でお伝えしたところ、横浜のIさんから早速、北大と小樽大学の図書館にあり、との情報が寄せられました。さすが、マスコミの世界で情報通信技術に精通した人物と、うなりました。

早速、図書館を通じて問い合わせてもらったところ、北見市の図書館にもあって、そちらからの取り寄せになりました。手元に届いたら、クマこいてテキスト入力して自家本にしちゃおうかな、と企んでおります。どんな結果になるか。まずは皆さん、お元気で〜。